

中芸高だより

令和2年度
第1号



高知県立中芸高等学校
校長 山脇 正範

令和二年度がスタートして、一カ月以上過ぎましたが、緊張した学校生活が続いている状態です。その理由は言うまでもなく、新型コロナウイルスの影響です。今年三月上旬から休業措置が取られ、令和元年度の学年末試験や修了式が行えないまま、令和二年度がスタートする、異例の状態に陥っています。感染予防のため、生徒の皆さんには、「密閉・密集・密接」の環境を避ける行動が大切であることを強く意識して、皆さんや皆さんの家族、友達の健康と安全を守り、感染の拡大を終息させることに繋げてもらいたいと思います。

さて、新型コロナウイルスの感染予防のため、中芸高校はもとより、日本全国の教育機関で大きく教育活動が制限を受けており、今まで普通に行っていた取り組みが縮小されている状況において、中芸高校生には、再認識をしてもらいたい事があります。それは、学校は児童生徒にとって絶対に必要な場であるということとです。「緊急事態宣言」が出され、学校に行きたくてもいけず、学校で勉強することができない状況の中で、是非とも学校で勉強できるありがたみを噛み締めてもらいたいと思います。

学校が再開となりましたので、授業にしっかりと取り組むことにより、自分の学力を向上させる努力をしてください。自分で勉強して

身に付けた学力や知識は、誰も奪う事ができません。そして、学力や知識を身に付ければ身に付けるほど、自分の進路の選択肢が増え、様々な有為な可能性が生まれてきます。自分自身の適性を把握しつつ、自分が望む進路を決定できるようにするために、勉強に取り組んでください。

今年度から、中芸高校では遠隔教育システムを活用した授業が、英語と数学で始まります。これは通信システムを活用して、モニターとスピーカーを通じて映像と音声がりアルタイムで届くことにより、高知市にある高知県教育センターで、英語と数学の先生が行う授業を中芸高校にいながら受けることができるものです。また、放課後にはこのシステムを使って、大学進学や公務員を目指す生徒のための補習も実施されます。高知市等の高校に進学しなくても、難関大学や公務員を目指すためのサポートを受けることができるようになりました。中芸高校の先生方による補習と合わせて、遠隔システムを活用した取り組みにより、是非学力の向上と進路の実現を目指してもらいたいと思います。

先にも触れましたが、新型コロナウイルスの影響により、世界規模で大きな影響が出ており、今後どのような状況になるのか現段階では想像もつきません。不確かな情報や噂に振り回されないようにしてください。例をあげれば、「トイレレットペーパーが無くなる」等の誤った情報により買い占めが生じて、店頭から商品が無くなった事実は、記憶に新しいと思います。生徒の皆さんはこのような状況だからこそ、落ち着いた行動により、日常の生活を送るよう心掛けてください。



令和二年度入学式



四月七日(火)、昼間部一四名、夜間部四名の新生を迎え、入学式が行われました。式では、入学生を代表して竹村樹奈さんが決意を宣誓し、心機一転の思いを胸に、新生活をスタートさせました。



対面式

四月十日(金)、二・三年生と新生との対面式が行われ、生徒会長の山本和佳さんの歓迎の言葉に、一年生代表の小松大斗くんがお礼と決意の言葉で応えました。

続く部活動紹介では、各部がそれぞれ作品やプレーを披露し、入部を呼びかけました。



合同防災訓練

四月十四日(火)、昨年に引き続き、田野小学校との合同避難訓練を実施しました。避難して小学生がスムーズに整列できるよう、高校生は誘導を手伝いました。今年は避難が完了するのが例年よりも早く、小学生も高校生も防災への意識が高まっていることが感じられました。これからのこの意識の高さを保つていくことが大切です。高知県でも数十年以内には南海地震が起きると言われています。災害への備えの必要性を再確認する訓練となりました。